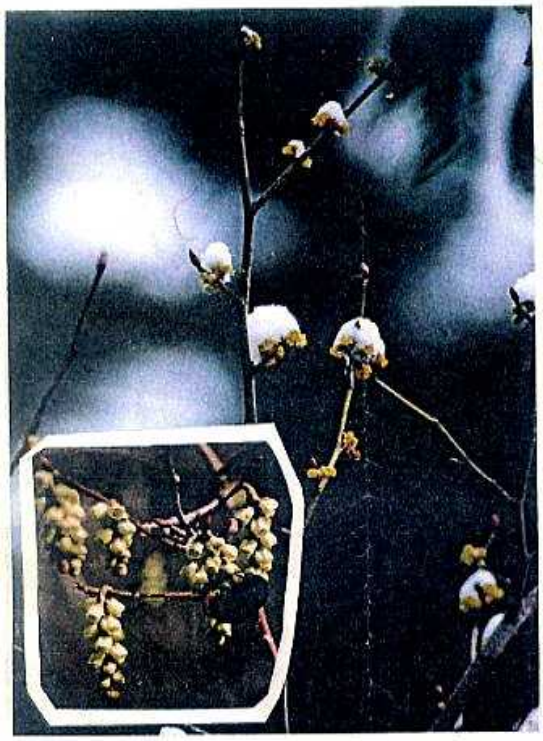
石川新聞

06.4.1 No108
発行責任 市岡 昭夫

ようやく春めいて来た祖谷



暖かさがすぎると、自然は変わりはじめる。小さな虫が見かけるようになると、クモが巣を作り出し、一雨ごとに山々の色も少しづつ変化しはじめる。

でも、今年は三月末に雪が降り、三月四七年積ったりと、なかなか春めいて来なかったけど、四月にはいると、様々な花も咲きはじめる。山桜も、東祖谷の入口で咲きはじめ、名残もようやく、咲きはじめ、馬酔木とともにその白さが目につきはじめました。

三月は、なんとはなく騒がしい日になってしまった。というのも、活彩祖谷村がスタートし、各地から「村民になりたい」という事が届いて、大変になってきたと、嬉しい悲鳴。まだ一ヶ月しか経っていないのに、もうずっと過去のことのような気がしてならない状態。

様々な人から、情報が入ってきたり「村長」と言われたりして、なんかゆっくり出来なくなりそうです。やりたい事がいっぱいあるのですが、気持ばかりがえ走ってしまいます。

とにかく、少しづつでも歩きはじめなければ……という事で、西祖谷の「豊者遊山村の会合にも顔を出しました。若い人たちが多くて、元気があるなあと感心。また、情報の共有化ということで急にまとめて、東祖谷、西祖谷の村民に集って頂き、三月五日以降の入村状況や、全国からの問い合せ等について報告も実施しました。

そして、活彩祖谷村の行動の一つである畑耕作について、三月二十五、二十六日を統一行動日という事で計画。心配された天気も、晴れて言うことなし。前日、耕運機を借りて、土おこしをやっておかげで、参加人数が少なかったけれども計画通りに「ごうしも」を植えました。種芋が多くて、予定より広く植えることが出来ました。

植える（3月25日、26日）

活彩祖谷村の活動は、茅葺き屋根の保存、婚活、活動、二つ目が民泊を広めて行く、そして三つ目が、耕作地を広げ、農耕をすることです。

この共同耕作地は、常生地区上栗さんより、土地を借り、そこに「ごうし芋」、そばを作ろうということで、はじめての共同耕作です。

二十五日には、阿波町（徳島県内）から祖谷村の村民になって頂いた下さんが参加。下さんは、農業を営んでいて、お米等を五反位耕作している人で、文字通り農業のプロ。細かい指導をうけながら、芋植え。

午前中は、ほとんど二人での作業。十時すぎて、弁当を作って貴平さん、奥鳴さんも来て午後からは、本格的(?)な農業。天気もよく会話もはずみ、順調に進む。

祖谷分校の森の調査に来ていた安田さんもきちんと芋を植えて帰えられました。

二日間、のべ十二人で、植えました。鹿、猪、猿との競争になりそうですが、楽しみです。

祖谷村 ごうしも（ジャガ芋）

はじめての共同耕作